

私の絵画はたくさん小さな断片を繋ぎ合わせたように出来ている。  
それは私が世界をそういう風に見ているからだ。  
自然の造形にはマイクロコスモスからマクロコスモスへと繋がる相似形がある。  
曖昧で不定形な草や樹や石や岩や山、川や湖や海そして雲、それらは連続することによって蠢くような混沌の中に秩序が生み出される。  
奇妙であると同時に美しい、私はそういうものに惹かれている。

板を使った作品では断片と断片をズラしながら並列し不連続的に連続させている。  
この不連続な連続が変拍子のようなリズムの装飾性を生み出している。  
2010年瀬戸内の男木島で壁画プロジェクトを手がけた。  
家の外壁に彩色した板を貼り、家そのものを作品化した。  
圧倒的な海と自然を前にその景観の中に入り込んでゆく為にはふさわしい素材だった。

画面に中心はなくあらゆる所に消失点があり、そして異なる時間を共存させている。  
木という支持体は物質感が極めて強く完全にモノ(実体)となるが、キャンバス絵画はその反対でフィールドは限りなく透明な虚(無)と想定する。

私の絵画に近づくとかなりリアルに樹や人の姿が確認できる。しかし画面全体が見える位置まで下がると装飾的な抽象絵画となる。  
リアリズム絵画であると同時に抽象絵画である。ここに矛盾する二重性がある。

日本には日本の世界観・自然観があり誤解を恐れず言うならば、多くの日本人はアニミズム信仰(自然崇拝／精霊崇拝)だ。  
ひとつやふたつの基準ではなく八百万(やおよろず)だ。世の中はいろんな価値観や基準で蠢いていてそれでいい。  
矛盾を孕んでこそその世界なのだと思う。

私が描きたいのは単なる目に映る事象ではなく背後に見え隠れする霊性。  
そして虚実の分からぬ中で無限とも思える世界をイメージし見る人を絵画空間の迷宮の中に誘いたい。

2012年3月  
眞壁陸二

BASE GALLERY  
103-0025  
東京都中央区日本橋茅場町1-1-6  
小浦第一ビル1F  
Tel03-5623-6655 Fax03-5623-6656  
info@basegallery.com